



西小だより

山形市立西小学校
令和8年3月2日
校長 小林 聡

「挑戦・感謝・仲間」 ミラノ・コルティナ五輪閉幕

～ メダル(結果)までの 道のり(過程)こそ 尊い ～

ミラノ・コルティナ冬季五輪が閉幕しました。明るく目一杯力を発揮する選手から元気をもらい、最後の最後まで力を尽くす姿に感動しながら、五輪のすばらしさ、ウィンタースポーツの面白さを存分に味わった毎日でした。

今大会はいつも以上に「挑戦」「感謝」「仲間」という言葉が聞かれたように感じます。ひと月前に骨折したことが信じられないほどの大技とそれでもそこに挑戦していった不屈の精神、トップを走り続ける苦しさを知るからこそその仲間へのリスペクト。規定違反で失格してからの苦しい4年間、ずっと支えてくれた仲間から「よくがんばったね」と抱きしめられ号泣する姿と「自分で戻ってきたというより、戻ってこさせてもらった」という謙虚で真っすぐな感謝の言葉。団体戦からずっと仲間を盛り上げ、コーチに「私が止めても、試合前日まで会場で仲間を全力で応援するところが彼女らしい」と言わしめ、自身思うような結果にならず涙した後も、「銀で悔しがる自分の成長を感じ、挑戦してきた4年間は間違っていなかった」と話した責任と覚悟。……きりが



『Number Web』2026.2.11より

ないほどの名シーンが蘇ります。

ややもするとメダルの色や数(結果)に目が奪われがちですが、私たちが感動するのは、結果に至るまでの道のり(過程)を知ったからではないでしょうか。その人がどんな試練や重圧に立ち向かい、どのくらい苦しい思いをし、どうやって苦難を乗り越え、そして今、どんな思いでそこに立っているのか、……これまでの道のりを知れば知るほど、心が震えます。挑戦し続ける過程が自分自身の成長であり、自分一人では乗り越えられない挑戦だったからこそ、感謝の言葉が自然と出てきたのだと思います。

今年度の学校生活も残りわずかとなりました。これまでの自分(たち)を振り返る大事な時期です。「漢字テストで100点をとった」「算数の文章題が解けるようになった」「二重跳びが20回できた」等、身に付けた力やできるようになった結果(メダル)を大いに喜ぶたいものです。しかし、それ以上に「どんなことを目標に」「どのくらい大変な思いをして」「どんなふうに努力してきたのか」……これまでの過程(道のり)を大事にしたいと考えます。人が成長する根っこは、オリンピック選手と同じです。

**失敗が起伏になって、ドラマが生まれる。失敗して辞めても、不調もなく順調に勝ってもドラマにならない。
挫折して、乗り越えて、達成してドラマになる。**

所ジョージ 「BIG tomorrow 12月号」より

私たちはドラマをつくりたいとして生きているわけではありませんが、人知れずがんばり抜いたことが、結果的にドラマになって自分の記憶の中に鮮明に残るのだと思います。

この1年のわが子のドラマを思い浮かべ、ぜひ言葉にして伝えてあげてください。「過程を大事にしてくれる大人」がいるから「結果につながる過程を大事にする子」に育っていくのだと思います。

卒業生75名 立派に同窓会の仲間入り

今年も大沼同窓会長、菅谷副会長においでいただき、同窓会入会式を行いました。

「お父さん、お母さんが西小卒業生という人はいますか？」大沼会長さんからいつもの質問が出されると、それぞれに多くの手が挙がり、中には「おばあちゃんが西小卒業生です」という子も。西小の歴史と時間の流れを感じます。「西小の卒業生としてずっと仲良く、地域や学校のことを心にとめてがんばってほしい。君たちが中2の時は創立50周年、……私くらいの歳に100周年。その時は、みんながその中心となって盛大にお祝いしてほしい。」というお話をいただきました。卒業生を代表してW.Mさんから「地域の方に支えられ、見守っていただいていることを実感しています。たくさんの方々への感謝の気持ちを大切に、希望をもって前向きな気持ちでがんばっていきます。」という頼もしい言葉と各学級代表幹事6名の紹介がありました。一步一步卒業に向かっていく6年生にとって、心新たにできる貴重な機会となりました。



～公園ゴミ拾いボランティア～



ビニール袋5つ分。放課後、すごい量のゴミを手にした3年生と5年生の子が学校にやってきました。「かえて公園、西田中央公園、道路に落ちているゴミが気になって、友達と拾ってきた。ペットボトルと空き缶、マスクもたくさん落ちていた。」とのこと。やっているうちに、ほかの友達も一緒に拾ってくれたそうです。以前、友達が進んでゴミ拾いをしていたところに一緒になり、いつか自分も自分から気付いてきれいになりたいと思っていたそうです。友達の姿や行動に学び、それを自分の行動として実現しているところがすばらしいなと感心しました。「気づき、考え、行動する」のスローガンの通り、学校で行っているJRCの活動が学校の外（地域）で実現しているところが本当に嬉しいです。

令和8年度 教育計画より

学習参観時にお伝えした内容です

ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

【1 運動会】

「子どもが創る運動会」を目標に、自分たちで創り上げる責任感や達成感、工夫する力や粘り強さ、仲間と協力してやり遂げる力など、活動を通して子どもが育ち、成長する行事にしていきたいと考えます。「一人一人のがんばりが得点になる」「走っている仲間へ精一杯応援する」「短い時間の中で走りも応援も集中する」等の姿を思い描き、「徒競走は記録をとらずに順位のみを競う」ことにします。「自己の記録を更新する」という体育のねらいに照らし、タイムを測るのは別日に設定します。年間計画に合わせて、3～6年生は6月、1、2年生は運動会後の10月末に体育授業の中で実施します。

リズムダンスは、準備運動ではなく、「どの子も体を動かす楽しさを十分に味わうこと」をねらいとし、「学年部ごと」や「動きや隊形に工夫を凝らす」等、子どもの実態に合わせてながら、自己表現の場としてプログラムの中ほどに位置づけたいと考えています。

【2 心の天気】山形市内全小中学校で実施

「心の天気」とは、子どもの心の状態を認識し、困っていること等に気づく糸口として活用するものです。子どもはタブレットを使って、心の状態を＜晴れ・曇り・雨・雷＞で表し、担任は必要に応じて声がけしたり、相談する場を設けたりしていきます。

もちろん、直接話したり、表情を見て声をかけたり、子どもと直にやりとりすることをこれからも変わらず大事にしていきます。そして、何より大事なのは、子どもたちの心身の健康です。「朝、健康な状態で『いってきます』『いってらっしゃい』という毎日」になるよう、家庭と学校の両方で子どもたちをぜひ支えていきましょう。